

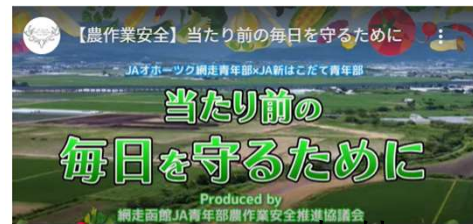
都道府 県名	北海道	区分	JA	実施主体名	JAオホーツク網走、 JA新はこだて
取組の概要	②農作業安全に関する情報発信の取組				
実施時期	令和7年10月～				

## ○ 取組の内容

JAオホーツク網走とJA新はこだての両青年部が連携し、農作業安全のガイド動画を作成。農業経営の雇用形態が多様化する中、農作業経験が少ない人にも事故を防ぐポイントを分かりやすく伝えようと企画。

動画はJA新はこだてのホームページで閲覧できるほか、dayworkの求職者ページにもリンクを掲載。

動画は約8分で、農機具の操作に潜む危険、体の負担を減らす作業の工夫、熱中症対策などを紹介。安全衛生教育に対応した基礎的な安全知識や雇い主の目線で注意して欲しい内容を伝えている。



Youtubeより

## ○ 取組の効果や今後の課題

○2025年12月10日現在で約1,600回再生され、多くの人に普及啓発されている。

## (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	青森県	区分	都道府県	実施主体名	青森県
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和7年9月～11月				

### ○ 取組の内容

- 農作業中の死亡事故は、高齢者に多い傾向だが、事故発生リスクは未熟練者も高い傾向にある。
- そこで、県では未熟練者等を対象にし、実機を活用した農作業安全研修を実施した。
- 開催に当たっては、地元の農機販売店及び県農業機械協会と連携し、農機販売店を研修会場として、机上講習及び実機を用いた安全作業や、メンテナンス手順についての実践的な研修を行った。
- 県内2地域（西北、上北）で開催し、計20名の農業者が受講した。



机上講習の様子

### ○ 取組の効果や今後の課題

- 研修受講者からは、「県内の事故事例を見て、改めて気をつけなければと思った」、「普段学べないことを学べて良かった」等の声が上がった。
- 実機講習時は、受講者から多く質問が寄せられ、安全作業やメンテナンスについての意識の向上が図られた。
- 今後も、関係機関と連携し、農作業安全の啓発活動を実施する。



実機講習の様子

# (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	岩手県	区分	農家	実施主体名	北上4Hクラブ
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和7年6月12日				

## ○ 取組の内容

- ・ 地域の若手生産者や農業後継者で組織する北上4Hクラブ（会員数27名）は、令和7年6月に「農作業安全」をテーマに研修会を開催。
- ・ 4Hクラブではこれまで、会員相互のほ場巡回や先進地視察研修等を実施してきたが、近年、農作業安全への関心が高まってきていることから本研修会を企画。
- ・ 研修会にはクラブ員及び関係者約20名が参加し、農業普及員を講師に「県内の農作業死亡事故の発生状況」「発生事例と農作業安全のポイント」のほか「熱中症対策」について研修。
- ・ 市内の大規模農業生産法人から「法人内で農作業事故が起こった際の再発防止に向けた取組」を紹介いただき、農業機械メーカーからは「刈払機等機械の安全な取り扱い方法」を説明。
- ・ 研修会では「農作業安全チェックシート」や「熱中症対策パンフレット」（農林水産省）を活用し、参加者に「作業安全ステッカー」を配布するなど、農作業安全等に対する理解を醸成。



農業普及員による  
研修の様子



市内大規模農業生産法人  
代表による研修の様子

## ○ 取組の効果や今後の課題

- ・ クラブ員からは「パート雇用等を使っているが、近年の猛暑で農作業時の熱中症対策は必須」、「法人の取組が参考になった」などの感想が聞かれ、農作業安全に対する理解が深まった。
- ・ 今後は、意識定着の観点からも、クラブ員相互で研修内容を共有し、継続的に注意喚起を行っていく必要がある。

# (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	宮城県	区分	JA 都道府県	実施主体名	宮城県農業協同組合中央 会 宮城県
取組の概要	②農作業安全に関する情報発信の取組				
実施時期	令和7年6月、11月				

## ○ 取組の内容

宮城県内の過去10年の農作業死亡事故件数は、平均で年間約5件である一方、近年は10件を超える年もあり、依然として減らない状況であることから、宮城県農業協同組合中央会及び県は、農作業安全に関する情報発信を行った。

具体的には、農業機械の展示や各種情報提供を行うJAグループ主催の「営農支援フェスタ」において、農作業安全啓発ブースを設置し、農林水産省や県で作成したリーフレットを用いて農作業事故の原因や対策、正しい農業機械の使い方について情報発信を行った。

また、農作業安全を「自分ごと」として考えてもらうように、農作業安全に関するクイズをタブレット端末を使用して実施し、参加者には農林水産省作成のステッカー等を配布した。クイズ参加者は4日間の合計で約200名であった。

## ○ 取組の効果や今後の課題

クイズ参加者からは「農業の死亡率が建設業より高いことを初めて知ったので、より注意して作業したい」、「家族に農作業安全のチラシを見せて、安全作業を呼びかけたい」といった意識改善に繋がる意見が聞かれた。一方で「シートベルトをほ場内で装着したことがない」、「自分はまだ60代だから大丈夫」といった意見もあり、継続して多くの農業者に対して情報発信による意識啓発を促していく必要がある。



# (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	秋田県	区分	市町村	実施主体名	鹿角市
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和7年1月29日				

## ○ 取組の内容

かづの農業協同組合で運営している無料職業紹介所等を活用した短期雇用が増えてきているため、認定農家のほか一般農業者にも呼びかけて農家向けの労務管理講習会を開催し、その際に農作業安全研修を併せて実施した。

講師として秋田県鹿角地域振興局農業振興普及課から協力をいただき、過去の農作業事故の発生状況例も交えながら、体調管理や機械の運転操作、点検整備の注意、確認事項など農作業全般にわたる安全研修の座学を行った。



講習会の様子

## ○ 取組の効果や今後の課題

農繁期には自身のほかに短期雇用者の安全管理にも気を付けていく必要があり、地域内でも農作業中の死亡事故例があることから参加者の関心度も高く、有意義な研修となった。

参加者からは「慣れた作業でも基本的な安全対策を押さえて確認しないと重大な事故につながる事が良くわかった」等の声があり、今後も定期的に農作業安全研修を開催することで、地域の農作業事故防止と安全確保に努めたい。



安全研修の様子

## (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	山形県	区分	都道府県	実施主体名	山形県
取組の概要	②農作業安全に関する情報発信の取組				
実施時期	5月12日～7月15日				

### ○ 取組の内容

山形県では、さくらんぼの農作業中に脚立やハウスから転落して大怪我に至る事故が多数発生しているため、作業が本格化する5月12日から7月15日を「さくらんぼ作業事故防止運動強化期間」と設定し、市町村やJ Aなどと協力し事故防止の呼びかけを行った。

具体的な取組としては、高所作業中の注意点について、啓発チラシの配布、広報車での呼びかけ、ラジオ・SNSでの呼びかけ、広報誌への掲載、栽培講習会に併せて研修会を実施した。

### ○ 取組の効果や今後の課題

毎年、「さくらんぼ作業事故防止運動強化期間」を設定しているが、事故件数は減少していない。

高所作業時はヘルメットを着用するよう呼び掛けているが着用率は低く、農業者の意識をどのように変えていくかが課題となっている。



## (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府県名	茨城県	区分	都道府県	実施主体名	茨城県 県南農林事務所 稲敷地域農業改良普及センター
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和6年12月17日(火)				

### ○ 取組の内容

農業機械への費用の負担軽減や農作業事故の未然防止を目的として、県南地域の受講生9人を対象に、農林水産研究所つくば館水戸ほ場で「農業機械メンテナンス講座」を開催した。農林水産省の山田技術指導官の指導のもと、資料を用いて農業機械のメンテナンス方法について学び、適切なメンテナンス方法を習得した。

【乗用型のトラクターの構造・機能、点検整備について】

実際に、仕業点検表を基にトラクターの点検を行った。

例) ナットの緩みを、金槌を使って音と振動で確かめる作業  
オイル点検の仕方、バッテリーの交換の目安など

【刈払機の構造・組立・調整について】

刈払機のキャブレターの分解や最高回転数の調整の実習を行った。キャブレターへの注油や刈払機の回転数の調整等、使用状況や動作を確認しながら、必要に応じて販売店で調整を依頼すること。

### ○ 取組の効果や今後の課題

受講者からは「日々のメンテナンスで農業機械を安全に長く使い続けたい等」といった意見が多数寄せられ、次回以降の研修に反映させていきたいと考えている。本講座を通じて、農業機械の日々のメンテナンスの重要性を学ぶことができた。また、農作業事故を未然に防ぐための環境づくりに関心を持つきっかけとなったと考える。



山田技術研修指導官による講話



点検作業を行う学園生

## (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府県名	栃木県	区分	都道府県	実施主体名	栃木県農作業安全対策推進協議会
取組の概要	②農作業安全に関する情報発信の取組				
実施時期	令和6年度12～2月				

### ○ 取組の内容

本県では毎年冬期に大型特殊自動車（農耕車限定）取得のための講習会を実施しているが、令和6年度から日程の中に農作業安全対策の講義（15分程度）及び農作業事故体験VRを導入した。

### ○ 取組の効果や今後の課題

○大特免許取得時にあえて公道走行時や農作業時の安全対策を取り上げる事は、受講者に対するアピール効果は高いようであった。特にVRを体験することが初めての受講者が多く、視聴後に普段の操作方法等を思い返し、改めようという意見が多かった。

今後の課題としては、農作業安全に関する講義時間をもう少し確保するか、講義以外で農作業安全に対して理解を深める方法を検討する。

## (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	埼玉県	区分	都道府県	実施主体名	埼玉県
取組の概要	農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和7年5月～1月				

### ○ 取組の内容

毎年埼玉県で実施している「農業機械利用技能者養成研修」では今年度からの取組として、受講者全員が研修中に「農作業安全啓発活動計画」を作成し、農業機械士等に認定された後、地域の実情に応じた農作業安全に関する啓発活動に取り組んでいる。

自らが啓発活動を担う立場となることで、研修内容への理解がより一層深まり、学んだ知識を地域で生かす契機となっている。



研修の様子

### ○ 取組の効果や今後の課題

受講者からは「自分が啓発する側に立つことで、研修内容をより主体的に学べた」「危険ポイントを他者に説明する中で、自身の作業も見直せた」といった声が寄せられ、安全意識の向上につながっている。

一方で、受講者が啓発活動に活用できる説明資料や注意喚起用チラシをさらに充実させていくが必要である。

## (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	千葉県	区分	都道府県	実施主体名	千葉県
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和7年度10月～2月				

### ○ 取組の内容

○国および県における農作業死亡事故のうち、農業機械作業による70歳以上の高齢者の事故割合が約7割と高い。これら高齢者の農作業事故リスクを低減させるため、千葉県農業機械士協議会と連携し、高齢者の農業機械整備体制の充実を図るため実施している。

○農作業死亡事故報告が多く、傾斜地等農作業事故リスクの多い中山間地域を対象とし、農閑期に農業機械点検員が農業機械の点検や機械の安全使用に向けた個別指導を行っている。単に農業機械を点検するだけでなく、実際の事故事例を示して危険なポイントや注意点などを伝えることで、参加者の農作業安全向上に資する内容となっている。

### ○ 取組の効果や今後の課題

○参加者からは「トラクターに関する事故事例や取り扱い方法を知りたい」「多くの人に参加できるように土日での開催を希望する」などの意見をいただいております。来年度以降の点検事業に反映できるよう検討したいと考えています。

## (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府県名	神奈川県	区分	都道府県	実施主体名	神奈川県、神奈川県農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会神奈川県本部、神奈川県農業機械商業協同組合
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和7年10月3日				

### ○ 取組の内容

例年、営農指導員、普及指導員などを対象に、事故の実態や事例に基づいた原因分析と、安全指導を行うためのポイントとノウハウを学び、今後の地域の啓発活動で農作業事故の発生防止につなげるため、農作業安全講習会を開催している。

県内の各地域で、農業者に対しより効果的な研修を実施できるよう、近年注目を集めている研修手法である「対話型研修」をテーマとして講習会を開催した。

農研機構職員より、「対話型研修」と「農作業事故体験VRの活用」について講演いただき、実際にVR機器を用いて視聴体験を行った。



実際の研修の様子

### ○ 取組の効果や今後の課題

参加者より、**未熟練農業者に対してVR機器を活用した研修会を実施したい**との意見があり、今後、各地域での農作業安全に関する研修会で、対話型研修の実施やVR機器の活用が期待される。

来年度以降の取組については、県内において発生している事故事例（熱中症等）を参考に、テーマを決めて今後も継続して講習会を実施していく。

## (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	新潟県	区分	都道府県	実施主体名	新潟県
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和7年1月				

### ○ 取組の内容

地域や現場で農作業安全活動を担っている方を対象に、対話型研修の開催方法や新しい研修ツールである農作業事故体験VRの利用方法等、効果的な研修の実施について学び、今後の農作業安全活動に役立ててもらうことを目的として令和7年1月に「新潟県農作業安全リーダー研修」を開催した。

研修では、新潟県が取りまとめた県内における農作業事故の発生状況を共有し農作業安全の普及啓発を行ったほか、外部から講師を招き、実例を踏まえた農作業事故の概要と改善事例、実践に向けた対話型研修の活用方法を講演いただいた。

また、講演後、受講者にVR機器を用いた農作業事故を体験する機会を設けた。

### ○ 取組の効果や今後の課題

県、市町村職員のほか、県内の農業法人やJA職員等、35名から参加いただいた。

研修後に実施したアンケートでは、「具体的な研修の組み立て方など、実践的な紹介が非常に参考になった。」「職場で活用できる安全な作業のために知恵を出そうと思った」など、9割以上の参加者から満足の声をいただいた一方、VRによる農作業事故体験が、研修時間の都合上、十分に対応できなかった場面もあった。

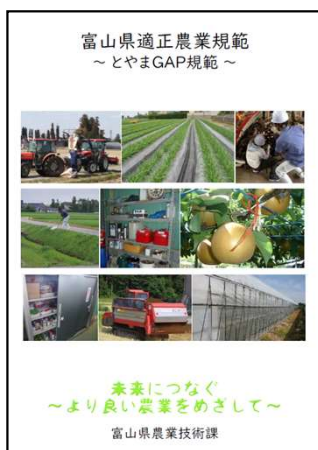
ただ、VR体験自体は非常に好評であったため、次回以降の研修にも積極的に取り入れたい。

# (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府県名	富山県	区分	都道府県	実施主体名	富山県
取組の概要	②農作業安全に関する情報発信の取組				
実施時期	年間を通して実施				

## ○ 取組の内容

- ・ 富山県適正農業規範（とやまGAP規範）に基づき、事故の未然防止対策等を徹底するなど、農作業安全に対する意識の向上を図っている。
- ・ 農作業安全運動は、春（3月1日～5月31日）と秋（8月20日～10月20日）に実施。運動期間中は、ポスターや広報誌などを活用した周知・啓発や、農作業安全に関する指導者を活用した農業者への指導を行っている。
- ・ また、農作業中の熱中症対策に関するチラシを関係部局と連携して作成し、熱中症予防のポイントや、労働者への熱中症対策の義務化等について、周知を行った。



とやまGAP規範



農作業安全運動チラシ



熱中症対策チラシ

## ○ 取組の効果や今後の課題

研修会で農作業事故の事例を紹介することで、リスクの再認識や農作業安全に対する意識向上を促している。

引き続き、関係機関と連携し、研修会の開催やチラシを活用した周知等を行い、農業者への意識啓発や農作業事故の発生防止に取り組んでいく。

# (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	石川県	区分	その他	実施主体名	加賀農業振興協議会
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組み				
実施時期	令和7年10月7日				

## ○ 取組の内容

○ 女性農業者から刈払機を扱いたいが、安全な取扱い方法を知らないと話があったことから研修を実施した。



座学の様子

○ 刈払機のメーカーに講師を依頼し、取り扱いや安全講習を座学で行った後、実際の刈払機を操作する体験会を実施。

※ 女性でも扱いやすいよう、燃料不要で軽量な、バッテリー式機械で実施。

○ 管内女性農業者等15名が参加した。



メーカーから指導を受けている様子

## ○ 取組の効果や今後の課題

○ 体験研修会は初めての取組みであったが、参加した農家からは、「初めて刈払機を使ったが、私でも使えることが分かった」、「いつも使っていたが、講義を聞いて安全に気を付けるポイントが分かったのが良かった」、「今後は、地域の草刈り行事にも参加できる」といった意見があり、研修の必要性を実感した。

## (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府県名	福井県	区分	都道府県	実施主体名	福井県
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	毎年10月~12月ごろ				

### ○ 取組の内容

農業機械の点検整備や農作業安全に関する知識と技能を有した農業者の育成を目的に、座学と実践を組み合わせた研修および検定試験を実施している。

農業機械の研究開発や農業者の指導などに長年携わっている方を講師として、農作業事故事例の紹介と原因の分析、事故を起こさないためにはどうすればよいのかについて講義を行っている。また、農業機械を安全に使用するためには日頃の点検整備が非常に重要であるため、点検整備の方法を資料により説明し、さらに実際の農業機械を用いた実践的な研修も行っている。研修後には筆記と実技による試験を行い、学んだことの定着を図っている。

### ○ 取組の効果や今後の課題

参加した農業者の声としては、下記のようなものがあった。

○普段作業しているときには全く気にしていなかったが、安全のための「正しい」作業方法を知ることができた。

○農業機械の点検整備については親世代に任せきりだったが、自分たちでもできるようになりたいと思った。

○研修の資料を社内で共有し、安全に作業できるようにしたい。

農業者の減少に伴い参加者が年々減少しているため、今後は本研修の周知に努め、より多くの農業者に受講してもらいたい。

# (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府県名	山梨県	区分	都道府県	実施主体名	山梨県農政部農業技術課
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和7年5月～令和8年3月				

## ○ 取組の内容

○全国の農作業による死亡事故は過去10年間で年間平均約300件発生しており、県内でも令和5年に6件発生するなど、安全対策の強化が重要となっている。このため、山梨県では推進会議を年2回開催し、関係機関が一体となって取組を進めている。年間5回、農業者等を対象に、農作業安全への意識向上による事故防止を目的とした研修会を開催している。(全5回のうち4回はほ場での機械操作講座、1回はVRや対話型研修を活用した座学)

○今年度は、第1回を5月に中北地域で開催し、第2～4回を11～12月に峡東地域、峡南地域で実施、12月には富士東部地域で開催予定。また、第5回は果樹での農業機械利用が本格化する2～3月に峡東地域で実施予定である。(11月21日現在)

○研修以外の取組として、啓発チラシを作成し60,300部を配布。HPやラジオ、広報紙での啓発も行った。今年度は「農作業は 急がず 焦らず 慎重に」の啓発文を印字した果実袋の使用拡大に加え、マグネットシートを作成し車体に貼付して広報巡回を実施した。(熱中症対策の巡回も追加で実施)

## ○ 取組の効果や今後の課題

○研修会開催、チラシ配布、HP、関係機関の広報誌、定期的なラジオや広報車での注意喚起など、年間を通じて多様な媒体を活用し、総合的な啓発を実施できた。

○農業者の高齢化は進行しているが、死亡事故数は昨年同期比で1名減となっている。

○本年は猛暑日が過去最多の44日を大きく上回る59日だったが、熱中症対策の啓発を行った結果、現時点で死亡事故の報告はない。

○農作業事故の要因には油断があるため、今後も安全意識の向上が重要である。



農作業安全広報巡回中

農作業は 急がず 焦らず 慎重に

山梨県農作業安全推進会議

車体に貼付したマグネットシート

今年度作成した啓発チラシ

# (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	長野県	区分	都道府 県	実施主体名	主催：東御市農業技術者連絡 協議会 (事務局：東御市産業経済部 農林課) 共催：上田農業農村支援セン ター
-----------	-----	----	----------	-------	--

## 取組の概要

農作業安全に関する情報の発信の取組

## ○ 取組の内容

長野県では農作業が本格化する5月と9月を農作業安全運動月間と位置づけ、農作業安全の啓発を強化している。

長野県東御市では、令和6年に農作業重大事故が発生したことから、関係機関が連携し、令和7年度農作業安全啓発活動に取組むこととした。啓発は、農産物直売所組合、東御市と連携し、具体的には出荷最盛期となる9月に雷電道の駅農産物直売所に出荷する農業者に対して啓発を行った。

県独自で作成したのぼり旗設置、啓発ベストを着用し、国作成のステッカー、上田農業農村支援センター作成のチラシ、東御市農業技術者連絡協議会作成のポケットティッシュを約150名に配布した。



県作成のぼり旗

## ○ 取組の効果や今後の課題

資材を配布した農業者の構成は、60歳以上80%、40-50歳15%、20-30歳5%、男性6割、女性4割であり、特に農作業事故が多い高齢者に啓発をすることができた。

直売所出荷者は名札付きで出荷するため、名前を呼んだ声掛けや、資材配布に出荷組合役員にも参加いただき、顔見知り役員からの声掛けにより、効果的な啓発ができた。

直売所組合役員からは後日、出荷者間で農作業安全に対する意見交換をしている様子も見られたことから、直接啓発活動をするこの重要性が認識された。



直売所組合役員による啓発

## (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府県名	岐阜県	区分	都道府県	実施主体名	岐阜県
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和7年8月～11月				

### ○ 取組の内容

○岐阜県では農作業中の事故が年平均5件程度発生していることから、営農組織等のオペレーター育成と機械操作未熟練者の農作業事故防止を目的に、令和3年度より「農業機械安全取扱研修」を開催している。

○研修は①座学（8月）と②実技（9～11月）の2部構成で、本年は21名の受講者を対象に実施した。

①座学：農研機構や岐阜県警の職員を講師として迎え、農作業中の事故事例や対策の紹介、公道走行時の注意事項、安全運転に関する知識などについて講義を実施。



写真：座学の様子

②実技：県内の自動車教習所にて、大型特殊自動車の公道走行時における安全運転技術を習得。

### ○ 取組の効果や今後の課題

○座学終了後のアンケートでは、「こんなに農業事故が多いとは思わなかった」「具体的な事例を説明され、参考になった」「自分の営農組合内で安全意識の向上に努めたい」などの回答があり、農作業安全について考える契機になっている。

○昨年度までに106名が研修を受講し、うち74名が研修終了後に大型特殊自動車免許試験に合格している。

○本年度は座学を8月中旬に実施したことで農家の繁忙期を避けることができ、座学欠席者は2名から0名に減少した。

○一方で、物価高の影響から全体の受講人数を減少させざるを得ず、今後の研修のあり方や内容について検討が必要である。

# (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府県名	静岡県	区分	J A	実施主体名	J A 静岡市
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和7年6月				

## ○ 取組の内容

J A 静岡市では、1年かけて野菜の栽培方法等を学び、J A 直売所「じまん市」への出荷を目指す「じまんの農業塾」を開講している。その熟生10名に対して、熱中症対策に関する研修会を開催した。

近年多発している熱中症の危険性を明確に伝えることを目的とし、J A 常駐保健師に加え、大塚製薬株式会社を招き、経口補水液について紹介を行った。

資料は、農林水産省技術普及課が作成した「熱中症対策研修テキスト」等を活用した。

### 熱中症になったときの応急処置

・熱失神のような軽度の熱中症であっても、周りの環境や状況によって、**応急処置をしないと重症化する可能性**があります。

・立ちくらみや脱力感等の**熱中症の症状を感じたら、すぐに「作業を中断」し、「応急処置」を実施することが大切**です。

・早い対応は回復への近道、**疑いを感じたらすぐに対応**しましょう。

① 作業を中断

(代表的な症状)  
・汗をかかない、体が熱い  
・立ちくらみ、吐き気、頭痛  
・脱力感、判断力低下

② 応急処置

・涼しい環境へ避難  
・衣服をゆるめ体を急速冷却  
・水分・塩分を補給

③ 病院へ

運搬する前に  
119番通報

応急処置をしても症状が改善しない場合は医療機関で診療を受けましょう!!

### 熱中症対策アイテムと活用方法①

**空調服・ネッククーラー**

・涼しさを感じながら作業を行うことができます。例えば、ファン付きウェアやネッククーラー等があり、どちらもホームセンター等で購入できます。

・また、ファン付きウェアについては、濡らしたインナーを内側に着用することで、より効果的に身体を冷やすことが期待できます。暑い時間帯の作業が避けられないタイミングで活用しましょう!!

**空調服 (ファン付き作業着)**

刈り払い機を用いた草刈り作業では、ファン付き作業服未着用の場合に比べ、**深部体温<sup>①</sup>の上昇を抑制する効果がある**という実証結果があります。

① 深部体温は、脳や臓器など体の内部の温度で、肉の奥まで伝わるため、肉層の厚さを身につくことで一定に保たれているもの。深部体温の上昇によって、熱中症を発症するリスクが高まります。

## ○ 取組の効果や今後の課題

夏場の熱中症リスクが高まる中、安全に農作業を行うための対策意識や、発生した場合の応急処置の知識を学び、受講者のリスク管理意識が高まったことが期待される。

今後も継続して開催し、内容のブラッシュアップを検討していく。

### 熱中症の応急処置

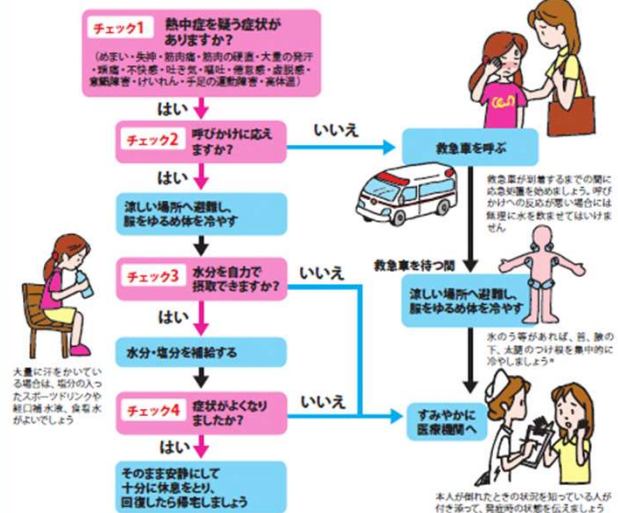


図2-7 熱中症を疑ったときには何をすべきか

# (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府県名	静岡県	区分	都道府県JA	実施主体名	静岡県東部農林事務所 JAふじ伊豆修善寺宮農経済センター
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和7年11月12日				

## ○ 取組の内容

静岡県は、令和7年度に国際水準に対応した新しいGAP認証制度「しずおか農林水産物GAP認証制度」を創設した。

GAP認証制度の評価項目でもある“リスク評価”に関して、今回は生産現場のほとんどが山間部であり斜面や水場が多い「わさび」の労働安全のリスクに着目した。

そこでわさび生産者を対象に、現場に潜在するリスクについて改めて考えてもらうため、講師を招いて研修会を開催することとした。

研修では、わさび田の現場を回りリスクの洗い出し後に、会議室にて現場で発見したリスクの要因や危険度の整理、それらの対策について考えるグループワークを実施した。



現場でのリスク抽出



グループワーク

## ○ 取組の効果や今後の課題

参加したわさび生産者（13名）からは、いつも労働安全には気をつけているが、労働安全に加え、食品安全（異物混入や収穫物汚染）、環境保全（農業用資材や残渣の処理）等のリスクについても改めて考える良い機会となったとの意見があった。

一方で、現場におけるリスクについては費用面や地理的条件から十分な対策を行なうことが困難との声もあった。

今後の取組としては、定期的なリスクの見直しの機会を通じて現場の当事者が労働安全を確保していく体制を、他の農作物の生産現場においても定着していけるよう、既存の講習会等の機会も活用して幅広く継続的に呼びかけていく。

# (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	愛知県	区分	都道府県	実施主体名	愛知県農業経営課
取組の概要	②農作業安全に関する情報発信の取組				
実施時期	令和7年度_通年で実施				

## ○ 取組の内容

愛知県では、地域の農林水産事務所→各市町村農業主務課を通じて、各市町村消防本部に農作業事故と考えられる事例について、情報共有を依頼している。その結果、県事務所のみでは把握が難しい地域の農作業事故情報が、県庁まで共有される。収集した情報は県庁が一覧として一括取りまとめを行い、即時に県内農林水産事務所（事務所から市町村へ）、JA愛知中央会（中央会から地域JAへ）、JAあいち経済連、JA共済連愛知、愛知県農業機械商業組合等の関係者へ共有している。

この情報共有により、熱中症やコンバイン事故など季節性の高い事故が迅速に県内全域に伝達され、注意喚起の強化につながっている。

さらに、収集した事例を集計することで、事故の発生要因や傾向を把握し、農業者向けの研修やリーフレットに反映するなど、再発防止に向けた取組の高度化を図っている。

## ○ 取組の効果や今後の課題

本取組は令和7年度に限らず、過去から継続して実施しているが、これまで研修資料は前年度分のみを対象に、傷病の程度や人数、主な要因などを集計してきた。今後、過去5年間程度のデータをまとめて集計し、統計的に解析することで、事故の発生傾向やリスク要因をより精緻に把握できると考えられる。こうした分析結果を活用することで、科学的根拠に基づいたより効果的な対策が提案できることを期待し、取り組み始めている。

## (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	三重県	区分	都道府県	実施主体名	三重県
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和7年(通年)				

### ○ 取組の内容

三重県伊勢志摩地域農業改良普及センターでは、農作業安全対策の取組を地域で推進するために、農業生産現場での各種講習会や現地巡回指導において、熱中症予防や農業機械の使用上の注意についての講習を行い、農作業時の事故発生防止に向けた注意喚起を行った。特に、夏季の高温化が進む中、市町、JAと連携し、研修会の実施回数を確保し農業者の研修への参加機会を増やすなど、熱中症対策について重点的に取組を進めた。研修会の開催に当たっては、農林水産省作成のパンフレットやチラシ、ステッカーを農業者や関係機関へ配布し、農作業安全の啓発を行った。

また、各生産現場での個別対応においても、随時農作業安全対策への意識向上に努めた。

### ○ 取組の効果や今後の課題

市町で開催される農業関係研修会や普及現地活動の場を中心に農作業安全に関する情報提供を随時行ったことで、農業者の農作業事故の発生防止に対する意識が高まったと感じる。特に、ファン付き作業服、ネッククーラー等、熱中症対策アイテムの導入推進に向けての契機となったと考えられる。

気候変動の影響により、熱中症による死亡事故が増える中で、より多くの農業者に危険性を周知し、対策を図っていくことが今後の課題である。次年度についても、熱中症対策に重点をおいた農作業安全の啓発への取組を継続する予定である。

# (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府県名	滋賀県	区分	都道府県	実施主体名	滋賀県
取組の概要	②農作業安全に関する情報発信の取組				
実施時期	令和7年度8月～10月				

## ○ 取組の内容

滋賀県では、毎年、全農業集落代表者（約1700人）に対して、農作業事故実態調査を実施し、県内で発生した事故の状況を把握している。

その調査結果を元に、県が実施する「令和7年秋の農作業安全月間」の啓発チラシを作成し、県内市町、JA、農業機械商業協同組合等を通じて約5,000枚を配布した。

チラシには、農作業事故発生件数の他、令和6年に発生した農作業事故の事例を記載することで、農作業事故を自分事と捉えてもらうよう工夫した。

また、熱中症対策や、事故発生件数の多いトラクターや刈払機の注意点を記載することで、事故ゼロに向けた啓発も行った。



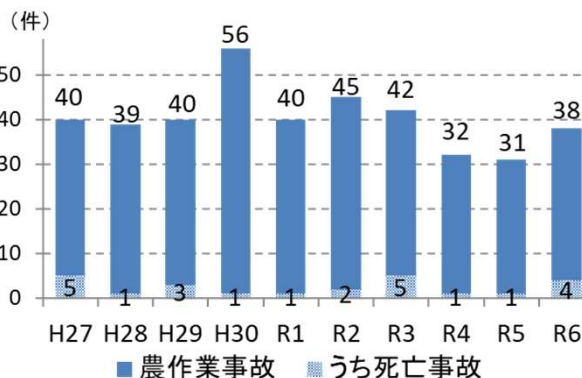
作成・配布した  
啓発チラシ

## ○ 取組の効果や今後の課題

主に農業者等が参加する会議、集会等で農作業安全の話題を取り上げていただき、併せて啓発チラシを配布していただいている。

滋賀県内では毎年40件前後の農作業事故が発生しており、引き続き研修等を通じて啓発を続けていく必要があると考えている。

農作業事故実態調査結果を他の啓発資料に生かせないか検討している。



滋賀県内で発生した  
農作業事故件数の推移

## (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府県名	京都府	区分	都道府県	実施主体名	京都府
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和6年6月～令和7年3月				

### ○ 取組の内容

京都府では、農作業安全の確保を図るために、府段階や地域段階の推進体制を整備することが必要であったことから、R4年に「京都府農作業安全推進会議」を設置し、関係機関が適切な役割分担の下、相互に連携しながら、一体となった取組を推進している。京都府農作業安全推進会議の構成員である京都府と京都府農業機械士協議会が委託契約を締結し、機械士協議会を講師として、派遣し、農作業安全研修を実施している。また府内7箇所の農業改良普及センター職員が各種栽培講習会に併せて農作業安全対策、熱中症対策についても農作業安全研修を実施している。



←現地実習



座学実習→

### ○ 取組の効果や今後の課題

今年度の農作業事故の発生件数は、前年度の同時期に比べ、少なく推移しており、農作業安全研修などの取組効果が現れていると考えている。

今後の課題は、研修会の開催効果の把握方法を検討することだが、他団体主催の研修会で実施されているアンケート調査等を参考に京都府農作業安全推進会議で独自のアンケートを作成したいと考えている。

また、近年、被害が増加している農作業中の熱中症に対する効果的な研修方法・対策について、全国レベルで情報交換を重ねながら、より良い取組を検討していきたい。

# (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府県名	奈良県	区分	都道府県	実施主体名	奈良県
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和7年4月～8月				

## ○ 取組の内容

農作業安全の継続啓発を行うため、なら食と農の魅力創造国際大学校の学生及び研修生を対象とした農業機械実習や大型特殊免許講習会等で農作業安全に関する研修に取り組んだ。

今夏は梅雨明けが非常に早く、高温の日が続いたことから、短時間でも熱中症予防が呼びかけられるよう各地で周知した。



農業研修生向け  
農業機械実習（大学校）



五條柿部会摘果講習会  
（五條市）



笠地区獣害対策講習会  
（桜井市）

## ○ 取組の効果や今後の課題

短時間の啓発であっても、農林水産省HPに掲載の啓発資料が分かりやすかったことから、参加者からは「農作業安全や熱中症対策の必要性がわかった」との意見が聞かれる等の効果があった。

熱中症予防を含めた農作業安全について、様々な場面で声かけが行われる環境づくりを進めるため、市町村、JA、県農業機械化協会、県農業機械士会等と連携し取り組んでいく。



西和花卉部会部会目揃え会で資料（右）を用いて熱中症予防を啓発（平群町）

# (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府県名	和歌山県	区分	都道府県	実施主体名	和歌山県東牟婁振興局
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和6年9月、10月				

## ○ 取組の内容

東牟婁管内では農業者の高齢化が進んでいる中、新規参入者や女性農業者が増加しており、農業機械等による事故の危険性が高くなっている。

9月に地域で実際に農作業を行っている地域農業士を講師として、JAみくまの農業女子らを対象に、トラクターの仕業点検及び安全使用について研修を実施した。

10月には、事故の多い刈払機の仕業点検及び安全使用について、JA職員（農作業安全に関する指導者）を講師として、女性農業者等を対象に研修を実施した。



トラクターに乗っての研修



刈払機安全使用研修

## ○ 取組の効果や今後の課題

受講者は、実際にトラクターや刈払機を操作し、不慣れた機械操作に苦戦しながらも、次第に作業が上達した。受講者からは、「緊急時に機械を止める方法や機械のメンテナンスはどうするのか」など多くの質問があった。各質問に対して、事例を挙げて解説しすることで理解を深めることができた。

今後も農作業での事故が起こらないように、機械操作に不慣れた新規参入者や女性農業者中心に啓発に取り組んでいく。

# (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府県名	鳥取県	区分	その他市町村	実施主体名	鳥取県農作業安全・農機具盗難防止協議会、北栄町
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組み				
実施時期	令和7年8月5日、8月27日他				

## ○ 取組の内容

農作業安全対策の取組みとして「対話型研修」を推進しているが、開催数が増えないことや農作業安全担当者の異動で「対話型研修」を知らない者が多いことから、協議会では担当者等を対象として手法を学ぶリーダー研修会を開催した。（※前年はVRゴーグルの操作方法の研修）

研修後、北栄町では、町主催としては初めて、集落営農組織や多面的機能活動組織等の農家を集めて農作業安全研修会を2地区に分けて開催した。

研修内容は、「VRゴーグルによる農作業事故疑似体験」、ヒヤリハット経験や事故対策を話し合う「対話型研修」、「熱中症対策グッズ紹介」等で、研修会の運営は農業改良普及所等も協力して行った。



農研機構の積グループ長を講師にリーダー研修



リーダー研修で担当者が対話型研修を実習



北栄町が研修会を開催

## ○ 取組の効果や今後の課題

リーダー研修の出席者の3分の2が「対話型研修」未経験だったが、手法を習得し、研修開催のハードルは高くないことを理解した。

今後も、各地域で「対話型研修」を開催し、協議会構成員のJA、市町村、農機メーカー、県が連携して取組む。

## (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府県名	島根県	区分	都道府県	実施主体名	島根県
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和7年度				

### ○ 取組の内容

島根県では、正しい安全知識を学ぶことを目的として、研修実施強化期間を設定し、農作業安全・熱中症対策に係る「農作業安全に関する指導者」等を講師とした農作業安全に関する研修を開催しています。

各農業部で研修の企画・実施を行い、農業者が参加する既存の会議・集会・講習会に農作業安全の要素を付加した形式など地域の実情に応じて開催しています。

### ○ 取組の効果や今後の課題

西部農林水産振興センターが構成員となっている石西地域農林振興協議会では、熱中症対策研修会を開催し、受講者は、具体的な労働者への熱中症対策の義務化の内容や、効果的な水分補給方法について学び、熱中症対策を講じる意識が高まりました。

アンケートでは「最近ニュースで熱中症対策が取り上げられているが、今回の研修で対策方法を学べたので良かった」「水分補給では、水だけ摂取することが多いので反省した」「農作業安全を心掛けたい」といった声が寄せられました。



研修会の様子

## (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府県名	岡山県	区分	都道府県	実施主体名	岡山県・岡山県農業機械作業安全運動推進協議会
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和7年9月2日				

### ○ 取組の内容

○全国の農作業中の死亡事故者数が減少している一方で、県内における死亡事故者数はここ数年ほぼ横ばいで推移している。農作業事故の防止に向け、関係機関や団体が連携し、各地域で啓発や研修等の取り組みを強化する必要があるため、市町村、農業団体、農機販売店等の関係団体を対象とした農作業安全研修会を秋の農作業安全運動期間に開催した。

研修では、県から県内の農作業死亡事故の発生状況と対策について説明し、県警本部が啓発チラシや事故事例の紹介を行った。

また、農研機構から講師を招き、県内外の事故事例の紹介と現場での対策、事故防止啓発の効果的な手法として、農作業事故体験VRを紹介し、研修参加者に体験いただいた。



VR体験の様子

### ○ 取組の効果や今後の課題

県内の事例の紹介と具体的な対策について、参加者は関心をもって説明を聞いていた。

また、研修会内で紹介した農作業事故体験VRについては、参加者から研修に取り入れたいとの声があり、各地域での研修がより充実したものになることが見込まれる。

都道府 県名	広島県	区分	都道府県	実施主体名	広島県
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和7年度8月				

## ○ 取組の内容

広島県では、持続可能な農業経営に向けて、毎年GAPの基礎研修を行っています。研修に関しては、広く農業者へ周知するべくHPで参加を募り、今年度はオンラインでも受講できるよう現地開催とZOOMで同時開催しました。

研修では、GAP取得についての説明の後、研修の約半分の時間を要して、農作業安全の専門家による、実体験も含めた農業機械の安全対策について説明をしてもらいました。また、農林水産省が作成した研修資料により、熱中症対策についての説明も行い、質疑応答等により、農作業安全の重要性を伝えています。



令和7年度 広島県  
**GAP基礎研修会 I**

-GAPとは、食料安全、環境安全、労働安全、人権・福祉に配慮した持続可能な取組のこと、「良い農業」につながる取組で、根柢にわたって持続的に発展するために必要な取組です。  
この研修会では、GAPの取組や、農作業安全への取組にフォーカスした実践的・リスク管理事例を紹介いたします。  
-GAPに取り組み、持続可能な農業経営に繋がっていきましょう！

会場	日 時	場 所
東広島	令和7年 8月7日(木) 13:30-16:00	広島県立総合技術研究所 農業技術センター 1階講堂(東広島市八本松町原 6869)
WEB	Zoom (リアルタイム配信)	メールにて、事前申込をお願いします。 おって、会議URLをお知らせします。

「GAPとは～持続可能な農業の取り組み～」  
講師：大信産業株式会社 課長 岡 秀一郎

「農作業安全と事例紹介」  
講師：農業機械士 田辺りんご園 田邊 真治

申込  
令和7年 7月31日(木)まで  
HP、メール、FAX、電話のいずれかで  
お申し込みください。  
詳細は農業、農 HP までご覧ください。

ご参加、  
お申し込み、  
みんなが  
ご参加ください！

【主催】 広島県 農林水産局 農業技術課 (TEL: 082-513-3585)

## ○ 取組の効果や今後の課題

【効果】基本的な農作業安全対策について、参加者へ周知することができました。

### 【課題】

令和6年度より、受講が環境直接支払交付金の要件対象から外れたため、受講者が大幅に減った事により、来年度は受講人数の拡大が課題と考えます。

### 【研修後アンケートより抜粋】

自由記載
ヘルメットや今まで考えなかったことを確認できた。農家さんの安全作業に役立てたい。
草刈機など、大きな音の出る機械を扱う際意思表示に鏡を使うというのは初めて知り、目からうろこでした。今後の参考にしたいです。
事故について具体的なイメージを持つことができ安全に大事さを理解できた
KY(危険余地活動)行動の大切さ。実際に現場で行ってみようと思った。
ヘルメット、シートベルト、安全フレームが命綱になること。作業前後のミーティングで従業員同士で安全性を確認しあうことが大事であること。等が参考になりました。
ヘルメット着用の事例であったように、実際に効果を感じる事がその後の習慣化につながる事が分かった。

# (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府県名	山口県	区分	都道府県	実施主体名	山口県周南農林水産事務所
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和7年7月23日(水)				

## ○ 取組の内容

○周南市の「須金ぶどう梨生産組合女性部」を対象として、自身や従業員が安心して働くことのできる環境づくりや来園者が安心して楽しむことのできる農園づくりを目指し、農作業安全や緊急時の対策を学ぶための研修会を開催した。9名が出席。

○事前に、過去のヒヤリハット体験や、知りたいことについてアンケートを実施し、当日、結果を参加者で共有（熱中症、刃物でのけが、落下、虫さされ等、病院から遠い農園のため、緊急時の対応について知りたい等の意見あり）

その後、事前に出された質問に答える形式で市の救急救命士より、緊急時の対処方法と事前準備、けがなどの応急処置について講義を実施。県からは、県内の農作業事故の状況と熱中症対策義務化フロー図の作成について説明し、春先の早い時期からの対策、高齢者への配慮等、重篤化防止や体制整備について、注意喚起を行った。



実際の研修の様子

事前アンケート

## ○ 取組の効果や今後の課題

参加者の農作業安全に対する意識は高く、それぞれの体験談の共有や、専門家からのアドバイスにより、理解が深まった。参加者からは「熱中症対応フローの作成の必要性」「救急車を呼ぶ基準」「救急箱や熱中症対策に必要なグッズ」が分かったこと、「農作業における注意事項や緊急時の対応方法が参考になった」などの感想が出され、実際にフロー図を作成したり、救急箱の見直し、熱中症対策を行い、各農園での作業に生かしている。

来年度以降も、定期的な農作業安全研修と、各農園における継続的な安全な職場づくりを実施する。

# (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府県名	徳島県	区分	都道府県	実施主体名	徳島県 (一社) 徳島県農業会議
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	2025年8月7日				

## ○ 取組の内容

近年の厳しい気候変動により、農作物の生育や収量・品質への影響や農作業による熱中症増加などの深刻な事態を招いていることから、農作業安全の啓発に向けた「農作業防止対策研修会」を実施した。本研修では、次の内容について専門講師より講義を受け、参加者が自らの農作業に即した対策を学べるよう構成した。

参加者は農業者約80名で、熱中症対策や事故防止の重要性を理解する機会となった。

### 地球温暖化と徳島の気候変化

最新の気象データに基づき、夏季の高温化が農作業リスクへ及ぼす影響を解説。

### 農作業の熱中症・事故発生要因の分析と予防策

熱中症対策動画を活用して、作業環境・体調管理・作業手順の改善ポイントを共有。

### 収入保険制度・暑熱対策資材等の情報提供

収入保険制度の内容や加入メリットを説明。暑熱対策資材等について情報提供。



実際の研修の様子

## ○ 取組の効果や今後の課題

### 気候変動への即応力強化

年々激化する暑さに合わせた「最新のリスク情報」の継続発信が必要。

### 現場実態に応じた個別支援

圃場の地形、作付体系、作業量などによりリスクが異なるため、地域ごとの具体的助言体制の整備が求められる。

# (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	香川県	区分	その他	実施主体名	香川県農作業安全 推進協議会
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和7年9月				

## ○ 取組の内容

大型特殊免許の取得を目的とした農業機械利用技能者養成研修の受講者（20名）を対象に、熱中症対策や農業機械の安全利用に関する講習を開催した。

熱中症対策については、事故事例を紹介しながら、熱中症の症状や原因、対策のポイントなどを、農業機械の安全利用は、研修に使用する乗用トラクターを使って、乗降車時・走行時の注意点や安全確認のポイントについて、JAや農機具メーカー、県職員から講習を行った。



熱中症対策テキスト  
を使った講習

## ○ 取組の効果や今後の課題

受講者の中には、「運転操作に日頃の癖が出てしまっていたが、安全確認の重要性が分かった」、「日々の作業時にはヘルメットを着用しているため、今後も続けたい」と好評であった一方で、「テレビで熱中症の話をよく耳にするものの、他人事と思っていた」といった声が挙がった。

具体的な事故事例を紹介することで、農業者にとって事故が身近であるという意識づけになるため、日頃からの対策につながるよう今後も啓発に努める。



トラクターを活用した  
安全講習

# (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府県名	愛媛県	区分	都道府県	実施主体名	愛媛県農地・担い手対策室
取組の概要	③ 都道府県・地域単位の推進体制の強化の取組				
実施時期	令和7年6月3日				

## ○ 取組の内容

令和7年6月1日に労働安全衛生規則が改正されたことを受けて、熱中症予防指導士による熱中症対策アイテムを用いた熱中症対策研修を新たに企画した。

農作業安全の指導に携わる普及員やJA関係者等に幅広く出席いただき、熱中症対策について理解を深め、実際の指導に役立つ情報共有を行った。



## ○ 取組の効果や今後の課題

令和7年度の熱中症に関する研修回数、受講者数共に増加した(20回増、約600名増)。研修内容についても、およそ50%の研修会で熱中症対策アイテムが活用されており、研修の効果を十分発揮できている。

今後も取り組みを継続して行く予定。(2~4スライドには当研修内容の活用について優良事例報告あり。)



# (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府県名	愛媛県	区分	都道府県	実施主体名	愛媛県今治支局 地域農業育成室
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和7年8月27日～				

## ○ 取組の内容

農作業中の事故による死亡率は他産業と比較して高い傾向にあり、特に熱中症による死亡事故は年々増加傾向にある。こうした状況を受け、令和7年6月には労働安全衛生規則の改正が施行され、職場における熱中症対策の一層の強化が求められている。

そこで、管内農業生産法人代表者等を対象に、熱中症予防指導士による研修会を通して、改正規則における対策の概要や具体的な管理方法の提案、現場で有効的な対策アイテムの活用についての理解を深め、農作業中の安全管理向上を図った。



研修会の様子

## ○ 取組の効果や今後の課題

農業生産法人役員からは熱中症対策に向け、暑さ指数計や空調服の導入を検討する声も上がった。

熱中症予防指導士を講師として様々な農業者を対象にした実践的な農作業安全研修を継続的に行い、農作業事故の防止に取り組む。



研修会の様子

## (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	愛媛県	区分	J A	実施主体名	J A おちいまばり
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和7年度6月～10月				

### ○ 取組の内容

営農経済事業部課長・センター長・店長会にて、農林水産省が発行している資料を活用して「農作業中の熱中症を予防しましょう!!」を周知して注意喚起を実施しました。

また、水田農業生産法人協議会総会にて、「熱中症予防対策」について考えるを、熱中症予防指導士（山本浩）より講習、株式会社城西よりアイテム商品等の紹介を受けて、注意喚起を実施しました。

下期には農作業安全に関する取組として「トラクター交通事故とシートベルト着用効果」を周知徹底しました。

### ○ 取組の効果や今後の課題

前年度同様に、会議の中で周知して注意喚起を実施いたします。

また、熱中症予防士の講習会では資料を基に、暑さ指数(WBGT)計や事例等わかりやすく説明を受けました。業者よりアイテム商品の紹介もあり、今後の対策の注意喚起ができました。

今後も早めの対策と対応ができる環境作りに取り組みます。

# (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	愛媛県	区分	JA	実施主体名	JAえひめ中央 労災保険加入
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和7年6月6日				

## ○ 取組の内容

国の定めた「熱中症対策研修実施強化期間」に熱中症対策についての研修を実施することとした。

研修に関しては、熱中症対策研修実施強化期間に定期総会が開催されるため、同時開催とした。

研修では、中央労働災害防止協会から講師に迎え、服や熱中症予防グッズを用いて研修を行った。



実際の研修の様子

## ○ 取組の効果や今後の課題

単独で研修をする場合は、10名程度の参加が多いが、今回は定期総会時に実施したことにより、組合員16名の参加があった。

研修会終了後にアンケートを取ったところ、内容について「満足した」との意見が多く、実際に取り入れるとの意見もあった。

来年度以降については、参加人数が増えるよう、実施時期を各地区と相談しながら実施を検討。

# (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	愛媛県	区分	市町村	実施主体名	宇和島市
取組の概要	②農作業安全に関する情報発信の取組				
実施時期	令和7年8月～10月				

## ○ 取組の内容

○就農1年目～8年目程度の新規就農者(30名程度)に対して、愛媛県南予地方局、農業委員会及び農協と合同で園地状況を確認し、農業者から悩み事をヒアリング。特に今年は猛暑だったため、水分補給、空調服の活用、休憩の重要性を周知。



就農者の園地でヒアリング風景

○直接ヒアリングを行わない農業者に対しては、宇和島市のSNSを活用して、管内農業者に対して熱中症及び農作業事故の危険性について注意喚起。



## ○ 取組の効果や今後の課題

○直接話すことで、農業者からは「熱いけど作業は休めないからな」という話はあるが、「空調服や水分補給をしっかりとって、いざ倒れた時に気づいてもらえるよう仲間に行き先を伝えてください」と改めて説明することで「わかったよ」と理解を示してもらえるため、直接話す効果を確認。

○補助事業を活用したり何かしらの協議会に加入したりしている農業者は市役所との繋がりがあり、他の研修会等についても参加してくれることが多いが、それ以外の農業者に対して直接注意喚起をする機会が少ないため、引き続きSNSの活用を検討。

# (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府県名	愛媛県	区分	JA	実施主体名	えひめ南農業協同組合
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和7年度8月5日				

## ○ 取組の内容

近年、稲刈りシーズンでのコンバインの転落・転倒や手足の巻き込まれ事故等が増加していることを受け、JAえひめ南青年部は農機具安全点検講習会を8月に開催し、鬼北・三間地区の青年部や女性部など25名が参加した。

当日は、JAの農作業安全指導者や、農機具メーカーより講師を招き、コンバインや草刈機などの実機を用いて安全な操作方法やセルフメンテナンスの方法について学びました。

また、熱中症対策研修も兼ね、参加者にはチラシを用いた注意喚起や熱中症対策ドリンクを配布した。



研修で実際に配布した啓発アイテム



実際の研修の様子

## ○ 取組の効果や今後の課題

今年度はじめて講習会を実施したが、青年部の協力を得て25名の受講者を集めることが出来た。受講者の感想としては「実機を用いた研修でわかりやすかった」、「開始時刻は昼前後の方が集まりやすい」などの意見があり、次回以降の研修に反映させたいと考えている。

また、次年度以降の取組については他の地区での開催も視野に入れて検討したい。



研修で実際に配布した熱中症対策アイテム

## (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	愛媛県	区分	JA	実施主体名	えひめ未来農業協同組合
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和7年7月12日				

### ○ 取組の内容

えひめ未来農業協同組合では国の定めた「熱中症対策研修実施強化期間」に則り、市内オペレーター農家約20名を対象に外部講師として(株)キセキ中四国をお招きし、熱中症対策とあわせてコンバインの点検方法について講習を行った。

この講習は毎年開催していたものの、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、昨年度まで開催できていなかったが、令和7年度より再開した。

### ○ 取組の効果や今後の課題

講習については参加した農家より反響があったため、今年度は、「農業機械作業研修実施強化期間」である2月に予定している農機展示会に合わせて、2回日の農機安全講習の開催を検討している。

## (様式4) 農作業安全に関する優良事例

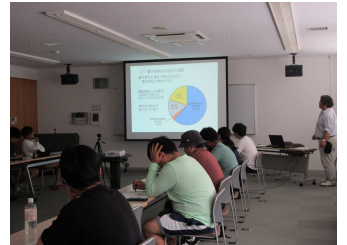
都道府県名	高知県	区分	都道府県	実施主体名	安芸農業振興センター
取組の概要	農作業安全に関する研修				
実施時期	令和7年7月				

### ○ 取組の内容

資金を借り入れて新規就農するケースが多く、農作業事故による生産活動の低下で経営を悪化させないために、管内9市町村の新規就農者や研修生を対象にした農業基礎講座（7～12月で全5回）で、熱中症を含めた農作業安全の講座を設けた。

講座は、国の定めた「熱中症対策研修実施強化月間の7月にあたる第1回目に実施した

講座では、農林水産省が作成した研修資料や農作業安全に関する指導者育成研修の資料を活用した。



研修を受ける  
新規就農者

### ○ 取組の効果や今後の課題

○毎年実施している農業基礎講座に初めて農作業安全の講座を設け、参加者は新規就農者、農業研修生が15人であった。

また、研修後にアンケートを実施したところ、参加者からは「農作業の中でヒヤリ・ハットの状況が出てきたら原因を考えて対応していきたい」「農機具の安全管理をしっかりとしていきたい」といった感想があり、研修の内容を更に充実させていきたいと考えている。

来年度以降の取組については、研修時間を長くし、伝える情報量を増やしていきたい。

## (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	福岡県	区分	都道府県	実施主体名	福岡県 農作業安全連絡協議会
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和7年6月4日(水)				

### ○ 取組の内容

近年、農作業中の熱中症による救急搬送は増加傾向となっている。そのため、協議会で毎年実施する農業機械を重点とした研修とは別に、熱中症に特化した研修を今年度から実施することとした。

令和7年6月1日に施行された改正労働安全衛生規則について、労働局から講師を招き、「熱中症を生ずるおそれのある作業とは?」「当該体制・措置内容・実施手順を周知する方法は?」「違反した場合の罰則は?」といった、資料だけではわかり辛い内容をかみ砕いて説明いただいた。

また、具体的な熱中症対策については、製薬会社より講師を招き、「効率的な水分補給の方法」「深部体温を冷やす重要性」「暑熱順化の重要性」といったポイントを説明いただいた。

### ○ 取組の効果や今後の課題

アンケート結果から、改正労働安全衛生規則について「わかりやすく学ぶことができた」「具体的に何をすればよいのか理解できた」といった回答があった。

また、研修では、熱中症にかかったことのある参加者からの体験談が語られたり、製薬会社の熱中症対策商品について様々な質問が出たりと、聞くだけでなく積極的な発言が多く、全体的に盛り上がりを見せた。

来年度は、今年度開催時期が農繁期であったことや暑熱順化の重要性も鑑み、開催方法や開催時期の前倒しについて検討する。

## (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府県名	佐賀県	区分	都道府県	実施主体名	佐賀県農林業機械化協会
取組の概要	農作業事故VR体験				
実施時期	令和7年1月22日				

### ○ 取組の内容

農作業事故の防止に向けて、佐賀市のSAGAアリーナで開催された「第26回全国農業担い手サミットinさが」において、実際の事故を体験できるVR体験コーナーを設置した。

体験内容としては「乗用型トラクター転倒編」「耕耘機後進作業編」などの8種類（必要な機材は、JA共済連から借用。）

周囲の光景や作業内容、うっかり起こしてしまいがちな点まで忠実に再現されており、よりリアルな体験をしてもらった。

来場者約20名(農業関係者、学生等)が体験され、実際の事故を疑似体験してもらうことで、より事故の怖さを自分事として理解してもらうことができた。



体験ブース

### ○ 取組の効果や今後の課題

VR動画で農作業事故を疑似体験された方からは、「普段、安全に気を付けているが、この体験を機に気持ちを新たにしたいと思います」や、「知人が実際に農作業事故で亡くなっており、自分も体験して事故の怖さを感じました」などの声が聞かれた。

今回のVR体験コーナーを通して、県内農業関係者に対して農作業事故防止をはたらきかけられた。

今後も関係機関と連携し、農作業安全対策の取組みを継続していく。

# (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府県名	長崎県	区分	都道府県	実施主体名	長崎県（県北振興局）
取組の概要	②農作業安全に関する情報発信の取組				
実施時期	令和7年7月				

## ○ 取組の内容

### 「取組の背景」

- ・ 令和7年6月1日付けで改正労働安全衛生規範が施行され、労働者への熱中症対応に係る報告体制の整備が必要
- ・ 管内においてはかんきつ農家、大規模繁殖農家を中心に雇用型経営を行われており、①雇用者の健康被害の防止するための体制整備と周知、②雇用者の健康被害防止の措置実施手順の作成が必要

### 「具体的取組」

- 当地区農家用啓発チラシを佐世保労働基準監督署監修の元で作成し講習会・総会時に説明配布した。（51回のべ1,020人）
- 佐世保市認定農業者協議会総会において、佐世保労働基準監督署安全衛生課長を講師に法改正のポイントと労働災害の防止について、研修を実施。

#### 熱中症発症・発見時の手順

○ 農作業中に目まい吐き気等気分が悪くなったから、身近な人にどこにいるか連絡しましょう  
 ① 日陰に入り、冷水等を飲んで全身を冷やして休みましょう。  
 ② 異常があれば、かかりつけの病院へ連絡をとりましょう。その間も体を冷やしましょう。

○ 熱中症で倒れている人を発見したら、  
 ① 呼びかけ等で意識の有無を確認をしましょう。  
 ② ただちに119番で救急車を呼びましょう。待つ間、日陰で体を冷やして待ちましょう。必ず、湿かけを添って下さい。

かかりつけの病院名	
病院の電話番号	
病院の所在地	
雇用主、家族の連絡先	

#### 経営主の皆様へ

6月1日より労働者を雇用する農業者は熱中症対策が義務付けられました。

労働者を雇用している農業者の皆様は、このチラシ（裏面）を事務所や作業所の見えるところに掲示してください。



講話の様子



講師（労基署安全衛生課長）

## ○ 取組の効果や今後の課題

### ○ 効果

- ・ 啓発チラシを要点のみとしたことにより、雇用型農家は全戸（280戸）で報告体制の整備など熱中症対策に取り組んだ。
- ・ 認定農業者に対して労働基準監督署から詳細な説明があり、雇

### ○ 今後の課題

- ・ 高齢者については熱中症の危険性が高く、高齢農家への熱中症対策の啓発が必要となる。

## (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	熊本県	区分	市町村	実施主体名	嘉島町
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和7年度5月～7月				

### ○ 取組の内容

「熱中症対策」の研修を実施し、毎月報告するよう依頼があったことを受け、嘉島町では熱中症対策研修実施強化月間中に、農業者が集まるタイミング（協議会等）での声掛けや、ホームページに農林水産省が作成した資料を情報提供として掲載するなど、熱中症対策の必要性が行き届くようにした。

(<https://www.town.kumamoto-kashima.lg.jp/q/aview/127/5247.html>)

### ○ 取組の効果や今後の課題

農作業事故（熱中症）の報告は1件もなかったため、熱中症に気を付けて農作業に取り組んでいた農業者が多かったのではないかと考えられる。

熱中症以外の農作業事故も報告はなかったが、研修やポスターの掲載、ホームページへの掲載等をしなかったため、こちらについても啓発活動ができれば、と考えている。

## (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	熊本県	区分	その他	実施主体名	熊本大分農業機械商業協同組 合
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和7年5月16日(金)				

### ①取組の内容

まず、熊本県は農作業中の死傷者数は全国的に見て多い方であり、特に我々関係者は強い決意を以って取り組む必要があると思います。総会開催時2年に1回のペースで毎回30名位技能士会・会員へ参加してもらい、関連ビデオの映写を実施しています。尚、参加会員はビデオの内容を広めるため、主に販売会社社員にお願いしています。

また、当組合役員会開催時にも、農作業事故が発生した場合必ず熊本県から事務局へ送信されるため、その要因を記した資料を配布し従業員へ注意喚起をするようお願いしています。

### ○取組の効果や今後の課題

今後の課題としては、納品時の試運転や整備依頼等で農家と接する機会が多くあると思われるので、その時訪問者が農業従事者へ事故の実例を上げて真剣に説明すれば、必ず事故撲滅に繋がると思います。

# (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	大分	区分	J A	実施主体名	全農大分県本部
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	R7年7月14日・9月9日				

## ○ 取組の内容

久住高原農業高校1年生約30名に対し刈払い機の基本操作並びに簡易メンテナンス等をレクチャーするとともに農作業における危険性と事前準備を含めた安全対応策を指導。(7月)



久住高原農業高校2年生7名に対しコンバインの操作方法並びに簡易メンテナンス等をレクチャーするとともに事前準備を含めた安全対策を指導。(9月)



## ○ 取組の効果や今後の課題

### 【効果】

将来、大分県農業を担うであろう若者に対し農業機械の利便さや高揚感を感じてもらおうと共に作業事故リスクという危険さを知っていただく非常に大事な機会と考えます。

### 【課題】

刈払い機やコンバインだけでなく様々な農業機械に見て触れて体感していただき農業機械という快適さだけでなく怖さを併せて知っていただき農作業事故の軽減に繋がることを期待します。

## (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	大分県	区分	市町村	実施主体名	津久見市農業再生協議会
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和7年7月18日(金)				

### ○ 取組の内容

○津久見市農業再生協議会では、新規就農者や既存の柑橘栽培者の柑橘栽培知識・技術の習得や醸成を目的に、「シトラススクール」と称して、毎月第三金曜日に柑橘栽培に関する研修会を開催している。

今回のシトラススクールでは、国の定めた「熱中症対策研修実施強化期間」に則り、受講生を対象に熱中症対策をはじめ、農作業安全に関する研修を実施した。

研修では、農林水産省などが公開しているテキストや情報を基に作成した資料を用いて、地域の実情を盛り込んだ話をしたり、具体的な症例、実際に発生した農作業事故を紹介したりなど受講生が関心をもつような工夫を行った。

### ○ 取組の効果や今後の課題

○取組の効果として、受講生の中には今回の研修を行ったことで、「他に作業時の事故はあるのか」、「他にも注意すべきことはないのか」など研修後に質問を受けたので、ある程度関心や興味を持ってもらえたのではないかと考えられる。

今後の課題については、熱中症や農作業事故について、「自分には関係ない」、「自分は対策を十分している」と考えている農業者は少なくないので、熱中症対策や農作業事故防止の内容を単体で取り扱っても受講生は集まらないと考えられる。そのため、他の内容の研修と一緒に行うなど、受講生を集める工夫が必要であると感じた。

# (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	宮崎県	区分	都道府県	実施主体名	宮崎県 農作業安全推進協議会
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和7年6月18日				

## ○ 取組の内容

### ○ 背景・目的

本県は、農業産出額全国6位の食料供給基地であり、農業が主要な産業の1つである。一方で、農業は就業者10万人当たりの死亡事故者数が11.6人と非常に多く、危険と隣り合わせの産業となっている。

今回、消防学校側からの提案を受け、農作業事故の救助に真っ先に駆けつける救助隊員を対象とした、農業機械の構造や安全装置等への理解を深めることを目的とした研修を、JA及び機械メーカーと連携して開催した。

### ○ 参加者

県内消防署職員、JA、機械メーカー、県



【研修の様子】

### ○ 実施内容

- ・ 農業革新支援専門員及び機械メーカーによる農作業事故の現状、トラクターの農作業安全のポイントについて講義（室内）
- ・ 実際にトラクターを見ながら機械の構造、安全装置、機械の取り扱いについて講義（屋外）

## ○ 取組の効果や今後の課題

### ○ 取組の効果

救助科生を対象とした研修であったが、幅広く県内各地の消防職員にも案内したところ多くの方の参加があり、農作業事故の対処法・救助法について積極的な質問がだされた。また、「実際に機械を見ることで構造や危険なポイントについて学ぶことができ、機械の構造に対する知識が深まった」、「救助の現場がイメージできて良かった」等の意見があり、救助対応という新たな視点で充実した研修となった。

### ○ 今後の課題・対応

初めての取組であり、農作業事故の多くを占めるトラクターを用いて研修を実施したが、参加者からは、「トラクター以外の農業機械を用いた研修の開催」や「ダミー人形を使った救助実習など、より実践に近い研修の開催」等の要望が多かったことから、次年度はJAの機械センター等を活用し、複数の機械について構造や救助法についての研修を開催予定。

## (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	鹿児島県	区分	市町村	実施主体名	日置市
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和7年8月				

### ○ 取組の内容

全国での農作業による死亡者数が約240名いることを踏まえ、日置市では国の定めた「熱中症対策研修実施強化期間」に則り、2回、計45人の農業者に対し農作業安全に関する研修を実施することとした。

研修では農林水産省が作成した研修資料を基に農作業における危険性を再確認した他、VRによる農作業事故を実際に体験することで作業前の点検や農作業中の注意事項について再確認した。

#### ○研修中の様子



### ○ 取組の効果や今後の課題

参加した農家からは「市内で発生している農作業事故」「事故後の検証を周知する」といった意見が出てきており、次回以降の研修に反映させたいと考えている。

また、来年度以降の取組については、農作業事故に加え例年異常な暑さとなっていることから熱中症対策も複数回に分けて研修するなど検討中。

## (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	鹿児島県	区分	市町村	実施主体名	いちき串木野市
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和7年8月26日				

### ○ 取組の内容

○本市の農業の中心を担う認定農業者会の会員の方々は農作業のプロであり、日頃から農作業安全に対して十分に注意して作業をされています。しかし、不慮の事故などがあることも事実です。少しでもいろいろな事故を体験してもらい被害を減らすために、今回はVRゴーグルを活用した研修会を実施しました。

○地域振興局から農作業安全の担当の方に講師として来てもらい、VRと映像資料を用いて約1時間の研修を行いました。

### ○ 取組の効果や今後の課題

○感想として、「普段乗らない機械での事故の体験や、使ってはいるがまだ起こしたこのない事故の体験ができたので有意義な時間だった。」という意見もあり、少しでも意識をしてきている人がいましたがVRの内容の充実を求める声もありました。

○VRは台数に限りがあるとは思いますが、物珍しさもあり、好評だったので研修などに積極的に取り入れていきたいと考えています。

# (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府県名	鹿児島県	区分	その他	実施主体名	指宿市農業機械士会
取組の概要	指宿市内農道におけるロードミラー清掃，点検，白線引き及び危険箇所マップの作成				
実施時期	令和7年8月5日				

## ○ 取組の内容

鹿児島県内における農作業事故は全国的に見ても多く、指宿市内においても毎年数件発生している。

そのため、例年開催している、農道におけるロードミラー清掃，点検，白線引き及び危険箇所マップの作成を行い、農繁期における農作業事故防止の啓発を行った。



## ○ 取組の効果や今後の課題

市内における消えかけの白線が、作業を行ったことではっきり見えるようになった。

また、ロードミラーの点検を行ったところ、2箇所の破損が確認され、市のロードミラー担当部署に破損報告を行った。

さらに、危険箇所マップを作成したことで、危険箇所の見える化を行い、全体を通して、市内農道における事故減少につながった。

今後の課題は、本活動を市内全域に広げていく事であり、会員をはじめとした担い手の確保が必要である。



令和7年作成 危険箇所マップ

# (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府県名	鹿児島県	区分	都道府県	実施主体名	鹿児島県(始良・伊佐)
取組の概要	新規就農者基礎講座 (①農作業安全研修)				
実施時期	令和7年度7月				

## ○ 取組の内容

就業者10万人当たりの死亡事故者数は11.6人と増加傾向であることや本県においても農作業死亡事故が毎年発生していることから、これから農業を支えていく新規就農者を対象に、農作業安全研修を行った。

研修では、農作業事故の発生件数やそれらの特徴、熱中症対策について周知するとともに、JA共済連よりレンタルしたVRゴーグルを使用した農作業事故体験を実施した。

また、グループワークの時間を設け、農業者同士でヒヤリハット事例を出し合い、よくある事例の共有やその対策について相互検討を行った。

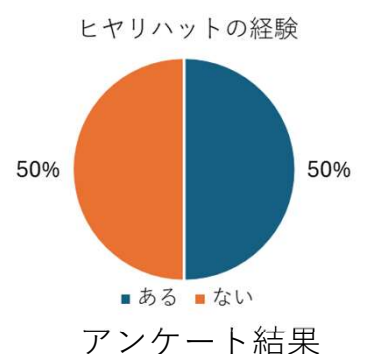
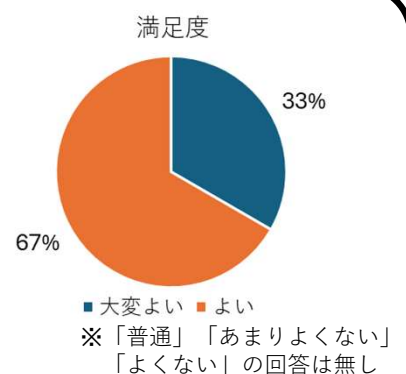


VRゴーグルを利用する様子

## ○ 取組の効果や今後の課題

新規就農者を対象とした研修であったため、VRゴーグルによる農作業事故体験により、どういうケースが農作業時につながるか、視覚も利用した効果的な研修ができ、参加者の満足度も高かった。

一方で、グループワークのヒヤリハット事例相互検討については、参加者が新規就農者であったことから、ヒヤリハット事例がない方もいたため、テーマと協議内容を検討する必要がある。



## (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府県名	鹿児島県	区分	都道府県	実施主体名	鹿児島県大島支庁徳之島事務所農業普及課
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和7年9月16日				

### ○ 取組の内容

農業機械・農作業安全に関する基礎講座を開催した。今年度は、新規就農者や、その他若手農業者、JA徳之島・天城さとうきび部会ハーベスタ連絡協議会員に対して参加を呼びかけた。その結果、計70名の農業者が本研修会に出席した。

本研修会では、県農業開発総合センター溜池専門普及指導員により、農作業事故防止対策や熱中症対策、雇い入れ時教育について講義が行われた。また、トラクタやさとうきびハーベスタ、刈り払い機の使用方法及びメンテナンスについて、実際に機械を用いながら実演講義が行われた。



室内講義の様子



実演講義の様子

### ○ 取組の効果や今後の課題

以前は、その年の新規就農者に対してのみ参加を呼びかけていたが、本研修会では、若手農業者やさとうきび部会ハーベスタ連絡協議会員に対しても参加を呼びかけた。その結果、多くの農業者が本研修会に出席し、農作業安全に関する知識や、農作業事故防止対策を効率良く周知することができた。

一方、本研修会では、新規就農者向けの基礎的な講義がメインで実施されたため、全ての参加者のニーズに則した研修会であったとは言い難い。対象者を絞り、その対象者のニーズに合わせ、個別に研修会を実施する必要があると感じた。

## (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	鹿児島県	区分	市町村	実施主体名	和泊町
取組の概要	農作業安全に関する情報発信の取組。				
実施時期	後期（8～10月）				

### ○ 取組の内容

秋の農作業安全期間に防災無線・町文字放送・区長会にて農作業安全の周知を行った。

また、熱中症対策期間に防災無線・町文字放送にて周知を行った。

農作業安全・熱中症対策の周知では農林水産省が作成した資料等を使用した。

### ○ 取組の効果や今後の課題

○

農作業安全の周知を行っているが、農作業事故の報告が1件きている。

12月からサトウキビ製糖期。2月からバレイショ収穫機に入るため、農作業安全の再周知を行う。

## (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府県名	鹿児島県	区分	市町村	実施主体名	与論町糖業振興会
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和7年度4月～5月				

### ○ 取組の内容

○鹿児島から業者を派遣してもらい、ハーベスター保有農家へのメンテナンス方法や安全に作業を行えるための研修を実施した。

○参加組合数12組合、オペレーター約20名

研修会の様子



### ○ 取組の効果や今後の課題

○簡易的なメンテナンス方法や日々の日常点検を学ぶことで、製糖期の安心安全な機械運用に繋がる。

日々の日常点検、農作業安全への取り組みを各組合ごとに徹底して行えるように努める。

# (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府県名	鹿児島県	区分	J A	実施主体名	J A 北さつま
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和7年度5月～7月				

## ○ 取組の内容

○令和7年5月にさつま地域農業管理センター農作業受託者部会の支部長会や農事組合法人の定例会で事務組合発行によるパンフレットや資料を活用し熱中症対策を義務化6月施行へ！熱中症処置の例、対応フロー等の説明をしました。

他、令和8年1月～2月には農作業受託者部会員を対象にした研修会を計画しています。

また、J A主催による夏の農機展示会等で労災保険及び農作業事故に関するパンフレットの配布をしています。

## ○ 取組の効果や今後の課題

○5月に開催した農業管理センター支部長会では、熱中症対策について活発な意見交換が行われ認識を新たにする機会となりました。また「熱中症対策ステッカー」を各支所カウンターに置いて農作業安全啓発等に活用しています。

次回は、道路交通法について、けん引や緑ナンバーなどルールを知りたいので研修をしてほしいとの意見も出され、今後の検討事項となりました。



## (様式4) 農作業安全に関する優良事例

都道府県名	沖縄県	区分	都道府県	実施主体名	沖縄県
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和7年7月29日				

### ○ 取組の内容

農業用機械の安全な使い方と農作業事故を「自分ごと」と考えてもらうことを目的として、就農5年以内の新規就農者等を対象に農作業安全講習会（座学、実技）を開催した。

座学では農作業事故にかかる現状や発生要因、対策及び熱中症に関することを、実技では草刈り機、トラクタの始業前点検や装備確認、エンジン始動などを農業機械士が講師となって実施した。



座学の様子



実技の様子

### ○ 取組の効果や今後の課題

農家12名の参加があった。研修後にアンケートを実施したところ、参加した農家からは「事故の事例は痛ましく、気が引き締まった」、「気のゆるみ、ヒヤリ・ハットに注意したい」、「実際に機械を扱うことで操作のコツを知れた」等の声があった。

実技の研修中にエンジン音が大きく、講師の声が聞き取りにくい場面があったため、次回はマイクの準備や機械ごとに距離を取る等の工夫が必要である。